

2017年度決算 2018年度業績予想について

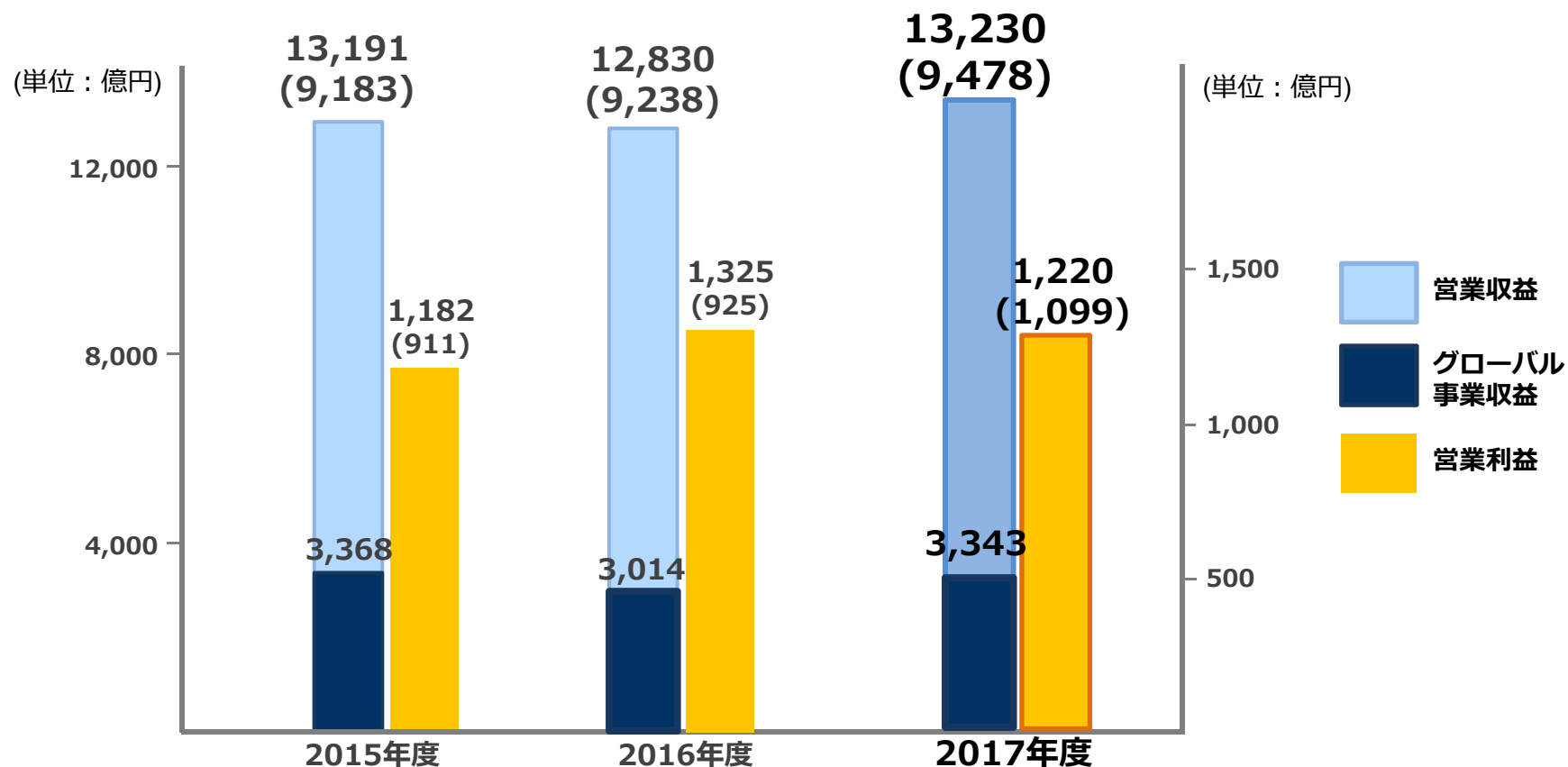
2018年5月11日



NTT Comグループおよび単体の営業収益・利益推移 (米国会計基準準拠)



営業収益は、前年を上回る13,230億円
 営業利益は、一時的費用の計上により前年を下回る1,220億円



(注) 上記のうち、()内の数値はNTT Com単体のみの数値【日本基準準拠】
 それ以外の数値は、NTT Comグループ(単体+子会社)の内部取引相殺消去等実施後の数値

NTT Comグループの事業分野別収益 (米国会計基準準拠)



(単位:億円)

	2016年度 通期実績(A)	2017年度 通期実績(B)	増減 (B)-(A)	増減率 %(A)→(B)
営業収益	12,830	13,230	+400	+3.1%
	(9,238)	(9,478)	(+239)	(+2.6%)
クラウド基盤	1,605	1,853	+248	+15.4%
	(720)	(809)	(+88)	(+12.3%)
データネットワーク	4,797	4,829	+33	+0.7%
	(3,848)	(3,954)	(+106)	(+2.8%)
ボイスコミュニケーション	2,844	2,763	△81	△2.8%
	(2,507)	(2,417)	(△90)	(△3.6%)
アプリケーション&コンテンツ	1,226	1,258	+33	+2.7%
	(377)	(363)	(△13)	(△3.6%)
ソリューション	2,238	2,369	+132	+5.9%
	(1,634)	(1,737)	(+102)	(+6.3%)
(再)グローバル事業	3,014	3,343	+329	+10.9%

(注) 上段は、NTT Comグループ(単体+子会社)の内部取引相殺消去等実施後の社内管理数値であり内訳は再掲
下段()は、NTT Com単体のみの数値であり内訳は再掲【日本基準準拠】

NTT Comグループの業績予想 (IFRS準拠)



(単位:億円)

	2017年度 通期実績(A)	2018年度 通期業績予想(B)	増減 (B)-(A)
営業収益	13,335	13,800	+465
クラウド基盤	1,853	2,210	+357
データネットワーク	4,808	4,910	+102
ボイスコミュニケーション	2,763	2,700	△63
アプリケーション&コンテンツ	1,258	1,300	+42
ソリューション	2,380	2,570	+190
その他	273	110	△163
(再)グローバル事業	3,343	3,940	+597
営業費用	12,150	12,490	+340
営業利益	1,185	1,310	+125
当期純利益	794	880	+86

(注) 当社及び当社子会社の内部取引相殺除去後の数値
 2018年度の業績管理は、IFRS(国際財務報告基準)に準拠し、NTT Comグループベースで実施。
 2017年度実績(IFRS準拠) はNTTにおける監査前の参考値であり、会計監査の結果により変更となる可能性あり

2018年度の取組み

B2B2Xモデルの推進に向けたデータ利活用の強化（1）

① 高品質・高信頼なインフラストラクチャーの追求

2012年：ASE
2013年：ASE香港ルート
2016年：APG運用開始
2017年：JUPITER敷設開始

グローバルネットワーク強化

2017年3月

海底ケーブル敷設船「きずな」竣工

データセンターカバレッジ拡充

2012年
Netmagic（印）買収

2015年
e-shelter（独）、
PT.NTT Indonesia Nexcenter買収

クラウド基盤拡充・強化

2018年3月

Dimension Data
クラウド事業移管

マネージドサービス強化

2018年4月

Secure-24（米）
買収

② 先進技術を用いた柔軟・迅速なサービス(SDx+M・AI・IoT)の開発

IoT Platformサービス
「Things Cloud」提供

2015年8月

IoT推進室設立

お客さま志向の柔軟かつ迅速な
AIソリューション提供

2017年10月

AI推進室設立

③ パートナリングの推進

外部とのAPI接続を容易にし、
ビジネス連携を加速

2017年6月

API Gateway as a Service
提供開始

お客さまとのビジネス共創に向け、
B2B2Xを推進

2017年10月

BI推進室設立

データ利活用
を支える
ケイパビリティ
の強化・拡充

■データ利活用を支えるケイパビリティの強化・拡充

お客さまがデータを利活用するためのプロセスを「収集」、「蓄積」、「分析」の3つに分けてサポート

「収集」

- ・IoTデバイスの種類・所在に応じた適切なセキュリティ対策として、「Secure SIM」「IoTセキュリティ基盤」「OT/ITセキュリティサービス」を展開
- ・様々な場所、多様なデバイスから発生する大量データを高速かつ高信頼に伝送するNWインフラの強化（⇒ 海底ケーブル「JUPITER」敷設開始）

「蓄積」

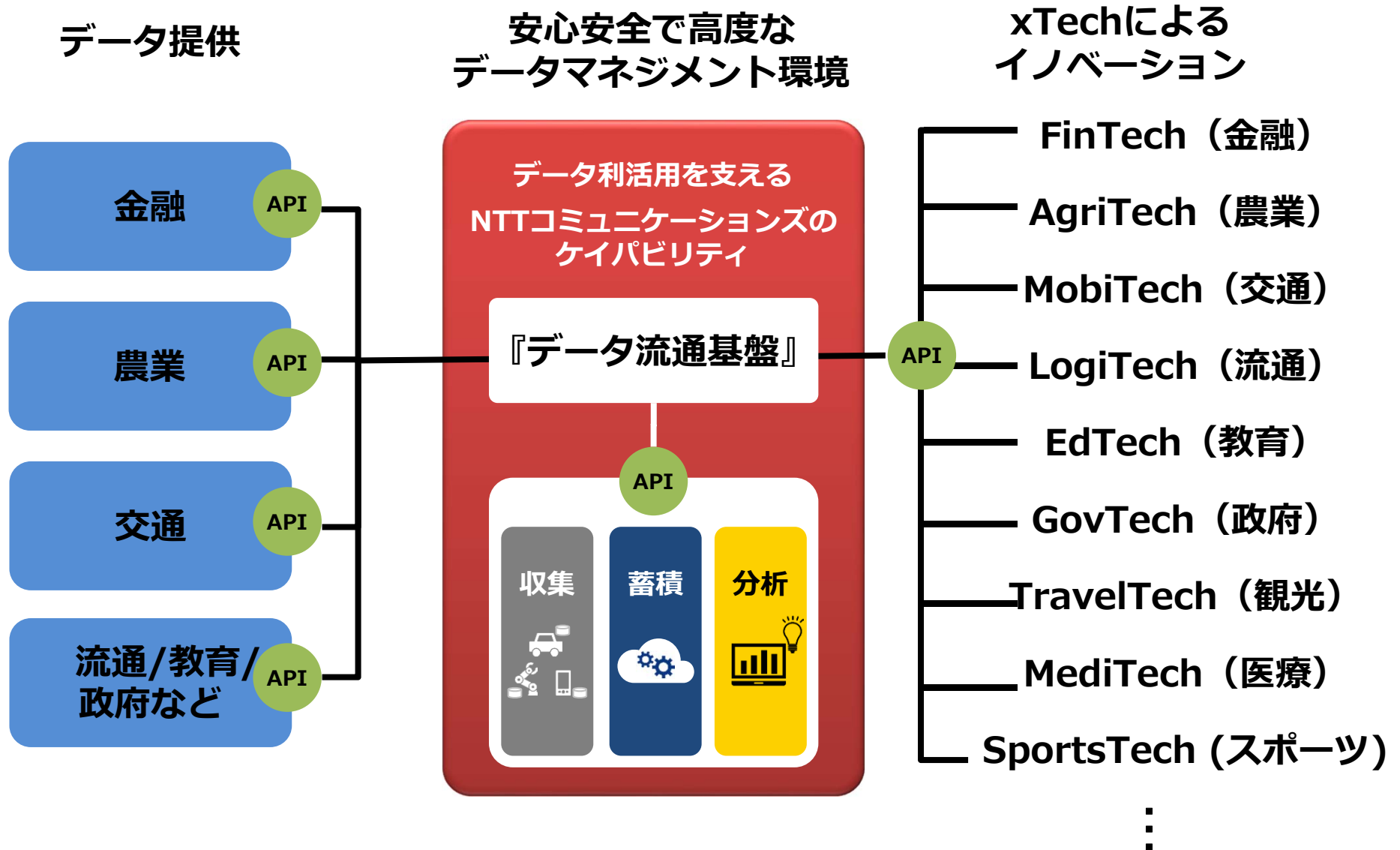
- ・グローバルに収集したデータを最大限利活用するための、最適な蓄積環境を整備（⇒ データセンターのカバレッジやクラウドのフットプリントを拡大）
- ・データをセキュアに蓄積する技術開発（⇒ 秘密分散、秘密計算、匿名化）

「分析」

- ・多様な分析ニーズに対応するため、パートナーと積極的に連携
 - 自然言語処理AI「COTOHA」のAPI提供
 - 他社クラウドサービスとの連携による「ログ解析ソリューション」提供

2018年度の取組み

B2B2Xモデルの推進に向けたデータ利活用の強化 (3)



(参考) NTT Comグループの主要サービスデータ



		2016年度 末時点(A)	2017年度 末時点(B)	対前年増減 (B)-(A)	2018年度 末時点 予想(C)	対前年増減 (C)-(B)
クラウド基盤	クラウドサービス お客さま数	9,000	9,900	+900	11,300	+1,400
	データセンター拠点数 <単位: 拠点>	136	136	±0	141	+5
データネットワーク	VPN回線 <単位: 千回線>	353	386	+33	437	+51
ボイスコミュニケーション	Arcstar UCaaS <単位: 千ID>	99	118	+19	166	+47
アプリケーション& コンテンツ	ひかりTV <単位: 千契約>	3,023	3,016	△7	3,100	+84

(注1) クラウドサービスにはEnterprise Cloud、Cloud[®]などが含まれる

(注2) VPNにはArcstar Universal One、IP-VPN、e-VLAN、ギガストリームの一部などが含まれる